

墨田のガラス技術 パリの見本市で紹介される 日本の技を伝える製品に選定



25日からパリの「メゾン・エ・オブジェ」で
展示される「酒道具」(入れ子式の5点セット)と
「e-glass」シリーズ

墨田区錦糸の松徳硝子が製造する「うすはり」と「e-glass(イーグラス)」が、一月二十五日から二十九日までフランス・パリで開かれる見本市「メゾン・エ・オブジェ」で、日本の繊細なデザインと技術を伝える十七製品の一つとして紹介される。

「メゾン・エ・オブジェ」は、家(メゾン)を中心とするインテリアとデザインの最新動向を発信する見本市で、欧州各国からバイヤーが集うことで知られる。公募による出展とは別に、日本貿易振興機構(JETRO)が、日本のデザインの輸出を目的に、昨年テーマに沿った国内の製品を専門家(デザインキュレーター)の推薦を受けて選出し、会場で展示している。今回選ばれた「うすはり」は、電球用ガラスの製造技術を応用してつくられた厚さ一ミリ以下のガラスが、今年のテーマ「In the Details」(「神は細部に宿る」という名言から取ったと思われる)のイメージに沿ったものとして採用された。また、同社が二〇〇五年に開発した、廃棄蛍光管から水銀などを無害化処理した再生ガラスの器「e-glass」も出品される。村松邦男松徳硝子社長は「自社商品を通じて日本の繊細なデザイン力を海外に示すことができたらうれしい」と語っている。

選ばれたほかの製品は、石川県の漆器工房の小型スピーカー、神奈川県の木工所の寄木細工、福井県の繊維会社のエコバッグなど。